

平成6年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

1995・3

小矢部市教育委員会



上野遺跡航空写真

# 平成6年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

1995・3

小矢部市教育委員会

## はじめに

小矢部市は富山県の西部、加越国境をなす砺波山東麓に拓けた地方都市である。昭和37年西砺波郡石動町と砺中町が合併し市政を施行した。面積134km<sup>2</sup>、人口約36,000人である。

市名の由来となった小矢部川は、市域を南北に貫流し、数々の流れを集め日本海へと注いでいる。この小矢部川右岸には広大な庄川扇状地が広がっている。庄川は、近世前田藩の治水工事以前は非常に活動的な河川で、度々その流路を変えており、そのため地勢は極めて不安定であった。これに対し、左岸一帯は庄川の氾濫から逃れられる非常に安定した地勢を形成しており、恰好の歴史の舞台を提供している。市内で確認されている遺跡数284ヶ所のうち97%以上が、小矢部川左岸一帯に集中していることがこのことを明瞭に示している。

本年度小矢部市内で実施した発掘調査は総数27件（内国庫補助対象22件）、対象面積約93,000m<sup>2</sup>である。原因是宅地造成などによる農地の転用によるものが殆どである。調査依頼の件数は昨今の不況にもかからず、ここ数年30件前後の高い水準で推移しており、減少の兆しは見られない。このため冬期間の調査を余儀なくされることが多く、整理作業に遅延を来しているのが現状である。

しかし、発掘調査の積み重ねは我々に数多く新知見をもたらしており、小矢部市の歴史をより緻密に、より深いものにしている。本年度、埴生上野遺跡では縄文時代前期末から後期初頭の遺物が採取され、大集落と目される当遺跡の一端を垣間見た。また谷内17号墳では前方後方墳が初めて発掘され、裏輪遺跡では奈良時代後半期の、日の宮・道林寺遺跡では室町時代前期の良好な一括資料が発掘された。その意味では、今年度も実りの多い一年であったといえようか。

なお、調査に当たっては地権者ははじめ数多くの方々の協力を得た。記して謝意を表したい。

平成7年3月31日

小矢部市教育委員会

教育長 岩峯敬正

## 目 次

### はじめに

I 調査経過	1
II 平田・藤森遺跡(第1期)発掘調査概要	3
III 埼生・上野遺跡発掘調査概要	11
IV 平田・藤森遺跡(第2期)発掘調査概要	23
V 谷内17号墳発掘調査概要	31
VI 萩輪遺跡発掘調査概要	41
報告抄録	

## 例 言

- 1 本書は富山県小矢部市内で平成6年度に国庫補助事業として実施した、押廬文化財緊急調査事業の概要を報告するものである。
- 2 発掘調査は、国庫補助事業50%、県費25%、市費25%の費用負担割合で実施した。
- 3 調査は伊藤隆三(小矢部市教育委員会社会教育課文化財係長)、塙田一成(同主事)、藤城全代(同主事)が担当した。
- 4 現地調査は平成6年4月11日に開始し、平成7年3月23日に終了した。
- 5 本書の編集は、伊藤の指導のもと、塙田の協力を得て、藤城と辻谷が行った。なお、文責は文末に記した。
- 6 調査にあたって、小島俊彰氏(金沢美術工芸大学教授)、西井龍儀氏(日本考古学協会会員)の各氏のほか多数の方々の教示を得た。記して謝意を表したい。
- 7 遺物は一括して小矢部市教育委員会が保管している。

## I 調査経過

平成6年度に小矢都市内で実施した埋蔵文化財調査は、試掘調査・本調査を合わせて総数28件、調査対象面積は99,959.32m<sup>2</sup>であった。調査の原因は場整備、土地区画整理、宅地造成、住宅建設、駐車場建設などである。これら調査のうち国庫補助事業として実施したのは22件、対象面積70,930.32m<sup>2</sup>である。そのほとんどは遺跡の所在確認のための試掘調査である。No3・5・7・8・9・10・11・12・13・14・16・17・18・19・20・21・22については遺構、遺物がまったく検出されなかったり、ごく少量であったのでNo1・2・4・6・15について調査の概要を記すこととする。

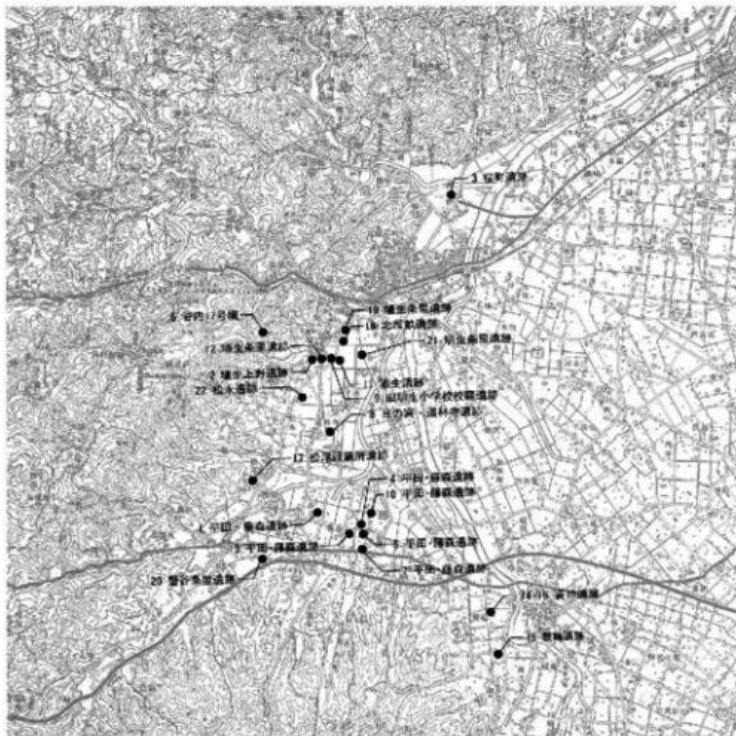


図1 平成6年度埋蔵文化財緊急発掘調査事業(国庫補助)実施位置図(1/100,000)

平成6年度埋蔵文化財発掘調査一覧(国庫補助分)

No.	遺跡名	所在地	調査の原因	調査期間	調査対象面積	調査結果・取扱い
1	平田・藤森遺跡	小矢部市 平桜6420	瓦粘土採取	H6.4.12 ~4.22	2,879m <sup>2</sup>	本書報告。 原因者が開発行為を中止。
2	埴生上野遺跡	小矢部市 埴生上野4821-5外	畑面整備	H6.4.11 ~5.31	300m <sup>2</sup>	本書報告。
3	桜町遺跡	小矢部市 桜町字塙山1785-1外	広告塔の設置	H6.4.14 ~4.15	7.84m <sup>2</sup>	土郎器・須恵器出土。 中世坪塙溝あり。
4	平田・藤森遺跡	小矢部市 名畑5131外	輸送タ…ミナル 建設	H6.4.20 ~7.20	6,426.81m <sup>2</sup>	一部本調査。本書報告。
5	平田・藤森遺跡	小矢部市 名畑5162	住宅建設	H6.4.20 ~4.28	998m <sup>2</sup>	珠洲鏡・越前焼数点出土。
6	谷内17号墳	小矢部市 地主字谷内107外	土砂採取	H6.7.19 ~8.30	1,500m <sup>2</sup>	本書報告。 H7年度調査継続予定。
7	平川・藤森遺跡	小矢部市 名畑5227-2	住宅建設	H6.7.12 ~7.14	436m <sup>2</sup>	遺構・遺物ともなし。
8	日の宮・造林寺遺跡	小矢部市 造林寺162外	私道新設	H6.6.13 ~6.20	262m <sup>2</sup>	中世土師器・瓦器・石碑・ 輸入陶磁器等遺物多数出土。
9	旧埴生小学校校庭遺跡	小矢部市 埴生241-2	倉庫建設	H6.7.12 ~7.18	177m <sup>2</sup>	土師器數点出土。
10	平田・藤森遺跡	小矢部市 名畑5081-3	農機具倉庫建設	H6.7.20 ~7.22	353m <sup>2</sup>	土師器數点出土。
11	埴生南遺跡	小矢部市 埴生203外	駐車場建設	H6.7.14 ~7.18	151m <sup>2</sup>	東西方向の自然流路あり。
12	埴生条里遺跡	小矢部市 埴生256	住宅建設	H6.10.18 ~10.20	280m <sup>2</sup>	土師器・須恵器數点出土。
13	平田・藤森遺跡	小矢部市 羅森5091外	駐車場・ 資材置場建設	H6.10.31 ~11.4	979.67m <sup>2</sup>	須恵器數点出土。
14	蓑輪道路	小矢部市 蓑輪352-2	宅地造成	H6.10.24 ~10.28	78m <sup>2</sup>	遺構・遺物ともなし。
15	蓑輪遺跡	小矢部市 蓑輪176-1	宅地造成	H6.10.31 ~11.7	245m <sup>2</sup>	本書報告。
16	蓑輪遺跡	小矢部市 蓑輪351-2外	宅地造成	H6.10.18 ~10.19	660m <sup>2</sup>	遺構・遺物ともなし。
17	松尾築義所遺跡	小矢部市 松尾字築義所28-1外	工場建設	H6.10.20	49,324m <sup>2</sup>	遺構・遺物ともなし。
18	北反戦遺跡	小矢部市 埴生359-3	住宅建設	H6.10.24 ~10.27	661m <sup>2</sup>	須恵器・珠洲焼數点出土。
19	埴生条里遺跡	小矢部市 埴生387-1	住宅建設	H7.3.13 ~3.15	516m <sup>2</sup>	珠洲焼・中世土師器數点出土。
20	蟹谷条里遺跡	小矢部市 平桜6339	育苗センター 建設	H7.3.10 ~3.15	950m <sup>2</sup>	遺構・遺物ともなし。
21	埴生条里遺跡	小矢部市 埴生3359	住宅建設	H7.3.14 ~3.16	498m <sup>2</sup>	中世土師器數点出土。
22	松永遺跡	小矢部市 石坂321	宅地造成	H7.3.16 ~3.23	3,248m <sup>2</sup>	土師器・須恵器數点出土。 壺1個あり。

II 平田・ふじのもり  
藤森遺跡(第1期)発掘調査概要

**所在地** 小矢部市平桜6420

**調査期間** 平成6年4月12日～4月22日

**調査対象面積** 2,879m<sup>2</sup>

**調査の原因** 瓦粘土採取

**調査日誌(抄)**

- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| 4.12 試掘ビット設定。掘り下げ開始。           | 18 竪穴式住居1棟、及び掘立柱建物1棟以上を確認。                 |
| 13 弥生土器及び須恵器等が各ビットから出土。        |  |
| 14 全体図作成。                      | 19 坪境溝を確認。また、律令期のものと考えられる溝も確認。精査。各遺構の写真撮影。 |
| 15 横トレンチ4、10、17、及び縦トレンチB、Eを設定。 | 21・22 埋め戻し。調査終了。                           |

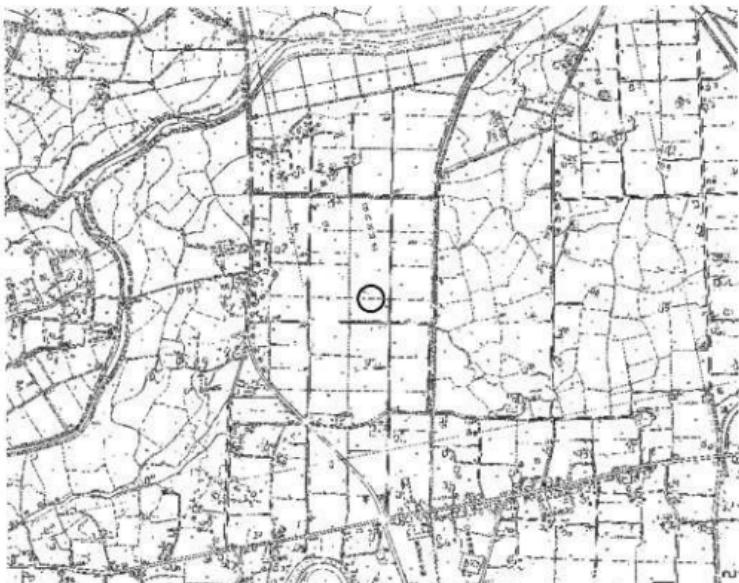


図2 発掘調査位置図(1/15,000)

## 調査概要

平田・藤森遺跡は蟹谷丘陵と渋江川に挟まれた段丘上に立地している。標高は遺跡の南端で約50m、北端で約35mを測り、地形は北へ向かって緩やかに傾斜している。現在はその多くは水田に利用されている。すでに場整備事業が完了しており、一部遺構面まで掘削されている箇所もあるようだが、大部分は尚良好に埋蔵されているものと思われる。(引用文献①)今回の調査区は遺跡範囲の北西部に当たり、瓦粘土採取にともなう試掘調査である。

調査は対象地全域に一辺約1mのテストピットを設定し、遺構、遺物の分布状況を把握した後、分布が濃密な部分については適宜調査区を拡張した。調査の結果、調査区全域で弥生から律令期にかけて遺構が分布していることが確認されたため、原因者が協議の上開発行為を中止した。

今回の調査で検出された遺構は、トレンチBにおいて土塙1基、トレンチEにおいて堅穴式住居1棟(図10、11)、掘立柱建物1棟(図15)、トレンチ4において弥生期の溝1条(図13)、トレンチ10においてピット3基、土塙2基(図14)、トレンチ17において土塙2基、溝状遺構1条(図16)が確認された。また各テストピットにおいても溝、土塙、ピット等が隨所に検出された。

(藤城)

引用文献①：小矢都市教育委員会『小矢都市埋蔵文化財分布調査概報Ⅳ』(小矢都市埋蔵文化財調査報告書第12冊)1983

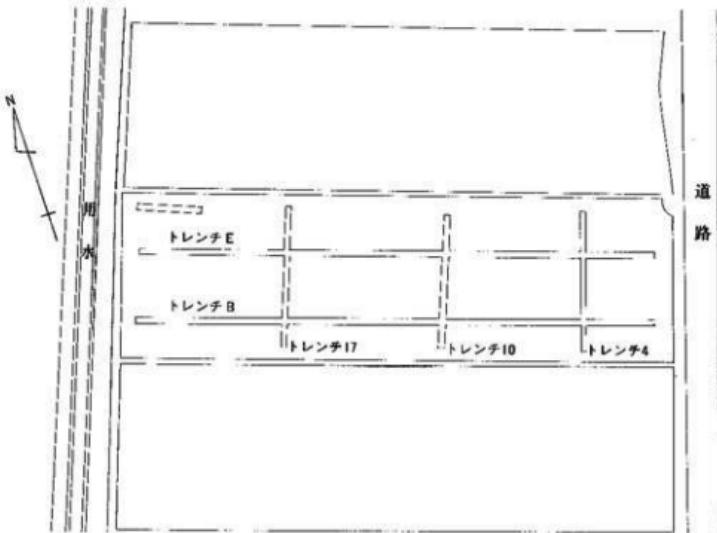


図3 試掘トレンチ位置図(1/1,000)



図4 調査区全景(北東から)



図5 調査区全景(東から)



図6 調査状況(東から)



図7 調査状況(清検出)



図8 調査状況(遺物採取)



図9 B-4区溝検出状況



図10 トレンチE(東から)



図11 トレンチE(西から)



図12 トレンチE(東から)



図13 トレンチ4(南から)



左上 図14 トレンチ18(南から)

右上 図15 トレンチE(東から)

下 図16 トレンチ17(北から)

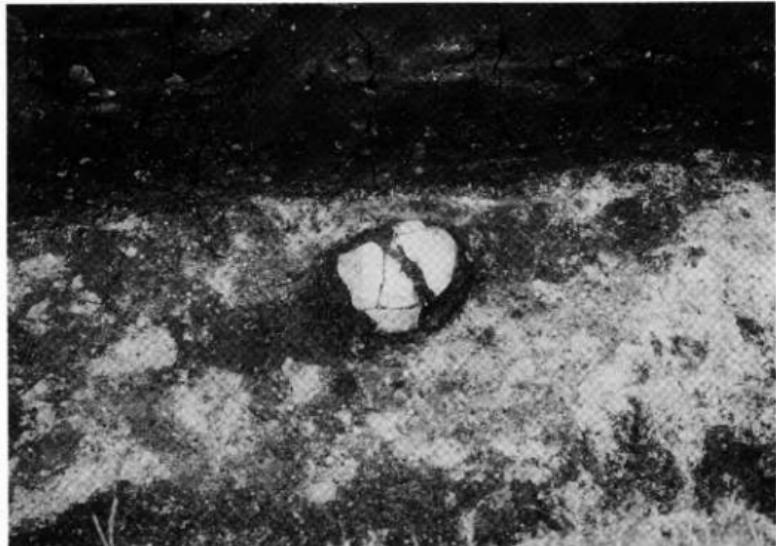


図17 遺物検出状況

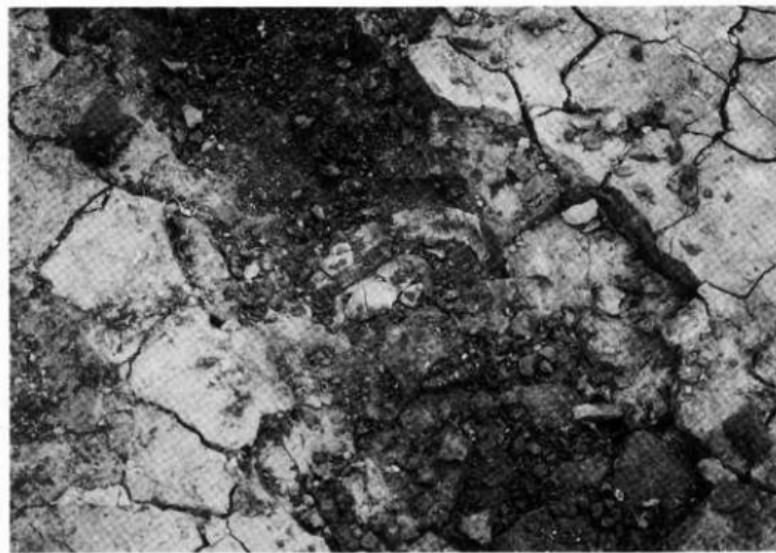


図18 遺物検出状況

### III 境生上野遺跡発掘調査概要

**所在地** 小矢部市境生上野4821—5外

**調査期間** 平成6年4月11日～5月31日

**調査対象面積** 300m<sup>2</sup>

**調査の原因** 煙面整備

**調査日誌(抄)**

- |                           |                              |
|---------------------------|------------------------------|
| 4.11 調査区北側より重機による表土排除作業   | 16 H区～J区2層目造構清掃。及び写真撮影。      |
| 開始。                       | 18 H区～J区2層目写真による遺物取り上げ。      |
| 12 本日より作業員入る。             | 19 C区にSK-1、SK-2検出。清掃。写真。     |
| 18 調査杭設置。                 | 20 SK-1、SK-2図化。及び遺物取り上げ。     |
| 20 東西に帯状に遺物が始める。          | 23 I-8区、J-8区部分写真撮影。及び遺物取り上げ。 |
| 26 標高の移動。                 |                              |
| (若宮古墳基準点52.486mより移動)      | 26 ベルトはずし。西側壁面土層断面図作成。       |
| 5.10 D区～J区1層目造構清掃。及び写真撮影。 | 30 コンター図作成。                  |
| 13 D区～J区1層目写真による遺物取り上げ。   | 31 調査区全面清掃。全体写真撮影。           |

#### 調査概要

境生上野遺跡は小矢部市北西部、砺波山丘陵東麓の標高約50mの舌状台地から台地南側標高約40mの面にかけて立地する。周辺には若宮古墳、谷内古墳群、境生南遺跡、北反畠遺跡などといった、砺波地域の中核的遺跡が数多く分布する。現状では台地上は宅地化が進み、台地斜面から平野部にかけては水田となっている。今回の調査区は遺跡範囲のほぼ中央、丘陵裾部に当たり、煙面整備にともなう本調査である。

今回の調査では遺物の量が当初考えられていた以上にあり、時間の都合により現場での遺物



図18 発掘調査状況

図化を省き、写真により遺物を取り上げた。遺物は調査区のはば中央部を東から西に帯状に分布しており、堆積量は深いところで80cmあった。また南側は土地がかなり落ち込んでおり、底のほうからは以前水田があったと思われるトタンや田境の杭などもでてきてている。調査区の上部と下部の標高差は約2mである。当調査区は平成4年度の埴生上野遺跡の調査区(参考文献①)より南東約40mの所にあり、その遺物堆積量の多さと傾斜のきつさから考慮して土器廃棄場であると考えられる。

調査の結果、縄文土器(図32~37)、土偶、耳栓(図38)、打製石斧(図40)、磨製石斧(図40)、石錘(図41)、石鎌、磨石(図39)、敲石、凹石(図39)などが、また黒曜石、安山岩などの剥片が多数出土した。縄文土器は新崎式、串田新式、気屋式等が出土していることから、遺構は前期末葉~後期前葉のものと考えられる。

(藤城)

参考文献①：小矢部市教育委員会「平成4年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報」(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第37冊)1993

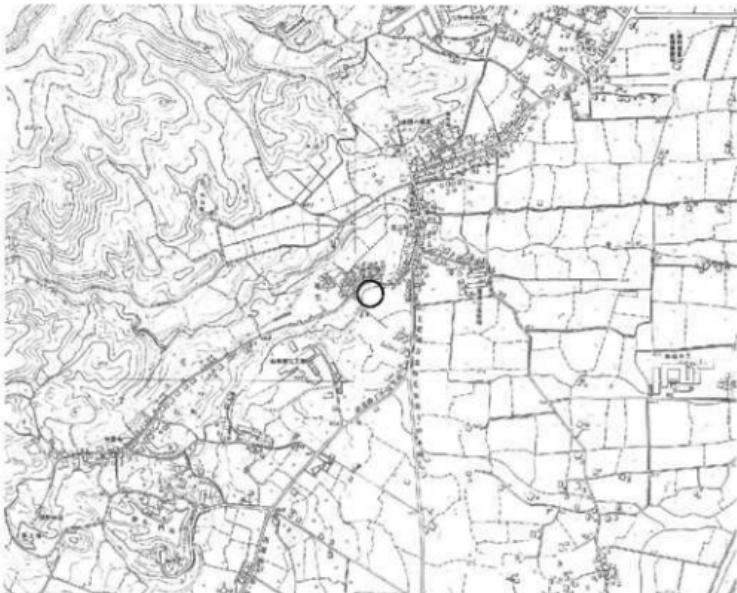


図20 発掘調査位置図(1/15,000)



図21 調査区遠景(南から)



図22 発掘調査状況(西から)



図23 発掘調査状況(遺物採取)



図24 発掘調査状況(南から)



図25 遺構検出状況(東から)



図26 遺構検出状況(西から)

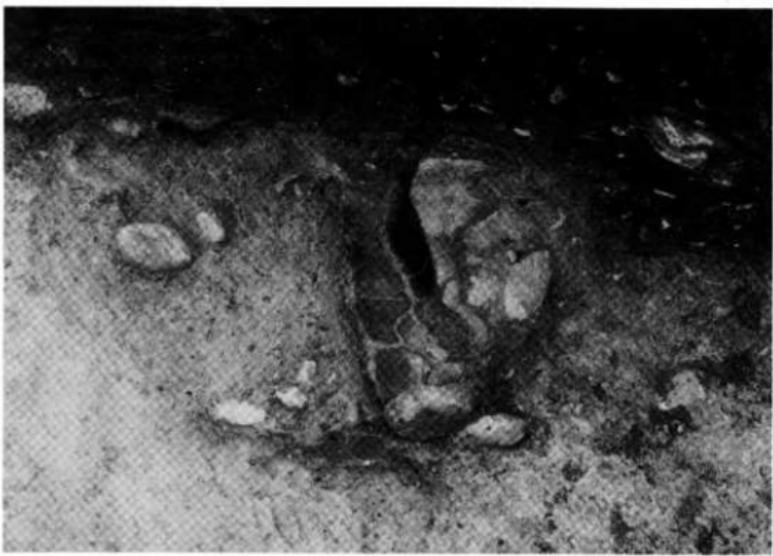


図27 遺物検出状況



図28 H-9区(北から)



図29 I-8区(南から)



図30 調査区全景(南東から)

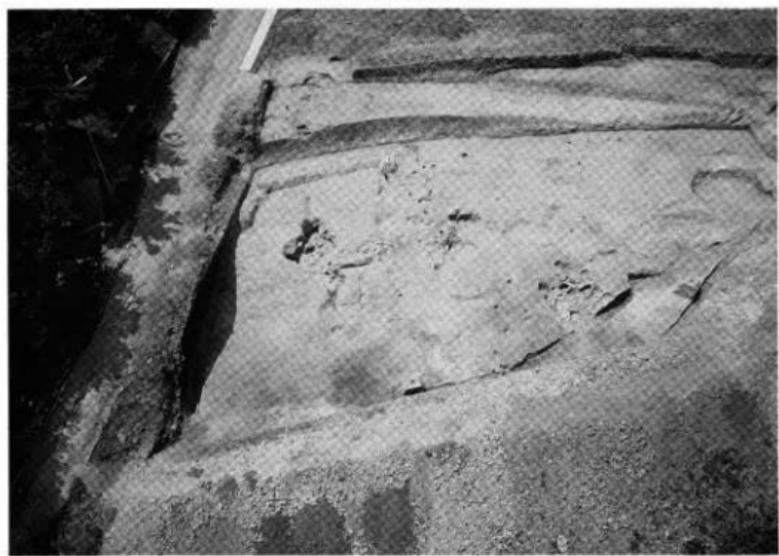


図31 調査区全景(真上から)

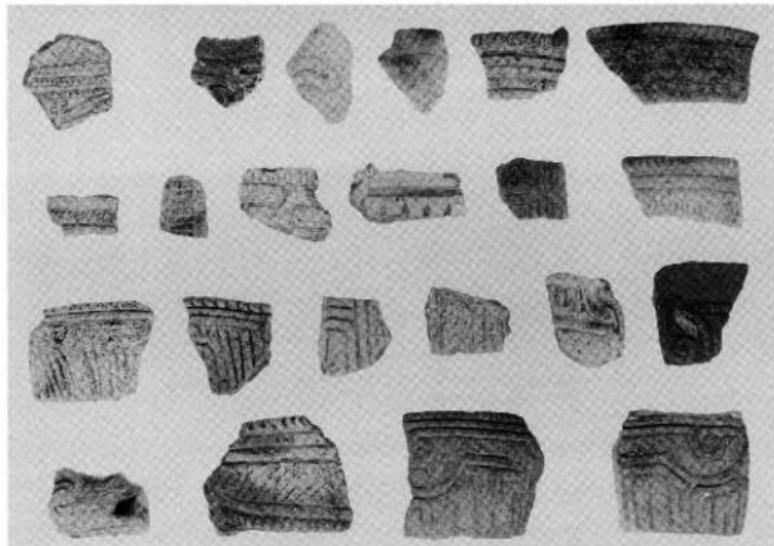


図32 塚生上野遺跡出土繩文土器(1)

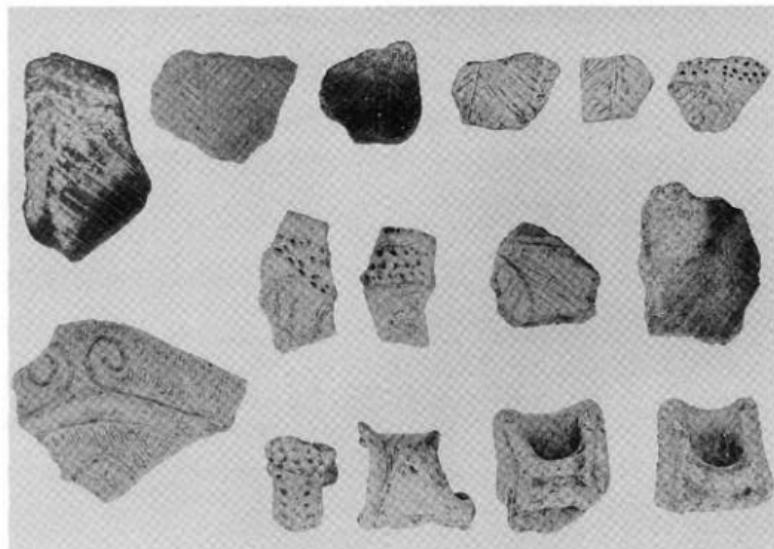


図33 塚生上野遺跡出土繩文土器(2)



図34 塩生上野遺跡出土縄文土器(3)

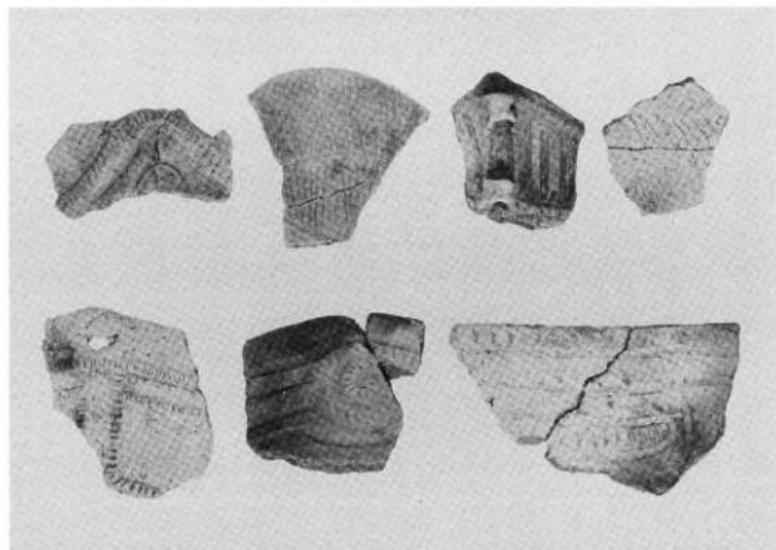


図35 塩生上野遺跡出土縄文土器(4)



図36 塩生上野遺跡出土繩文土器(5)

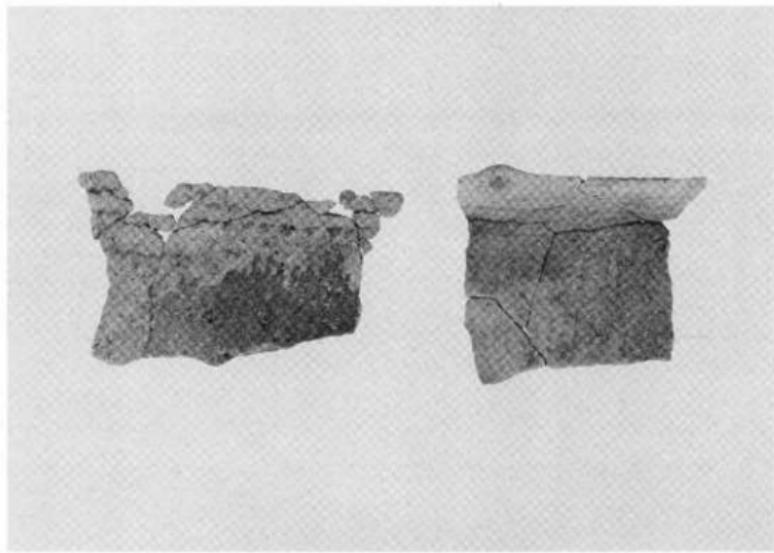


図37 塩生上野遺跡出土繩文土器(6)

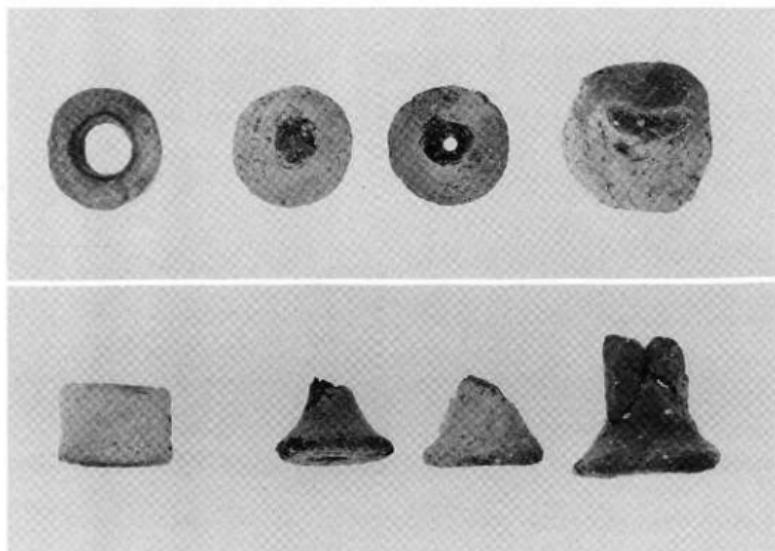


図38 塩生上野遺跡出土耳栓(上・上より 下・真正面より)

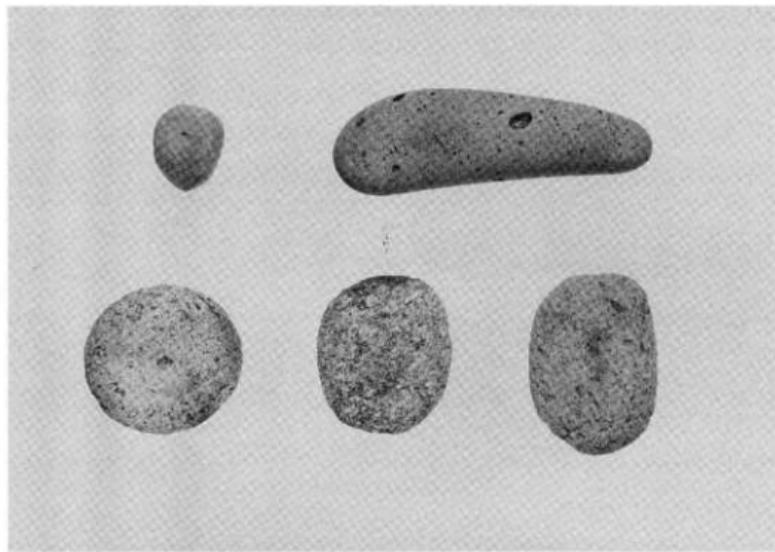


図39 塩生上野遺跡出土磨石・圆石

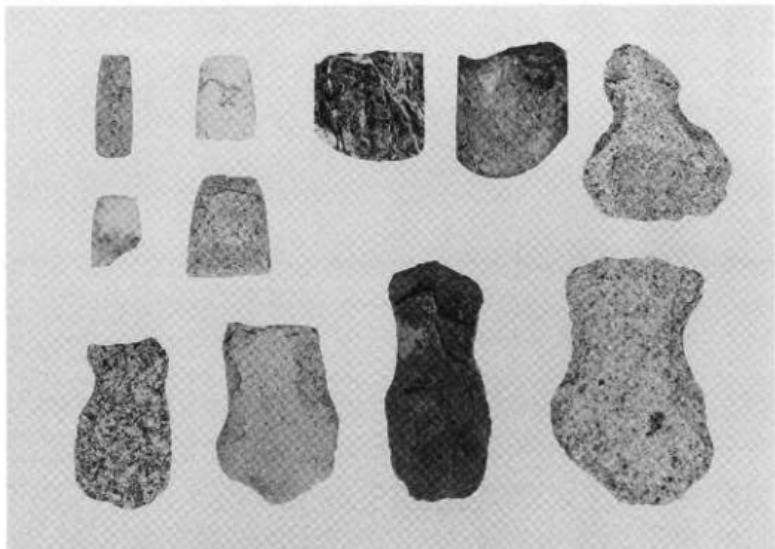


図40 塩生上野遺跡出土打製石斧・磨製石斧

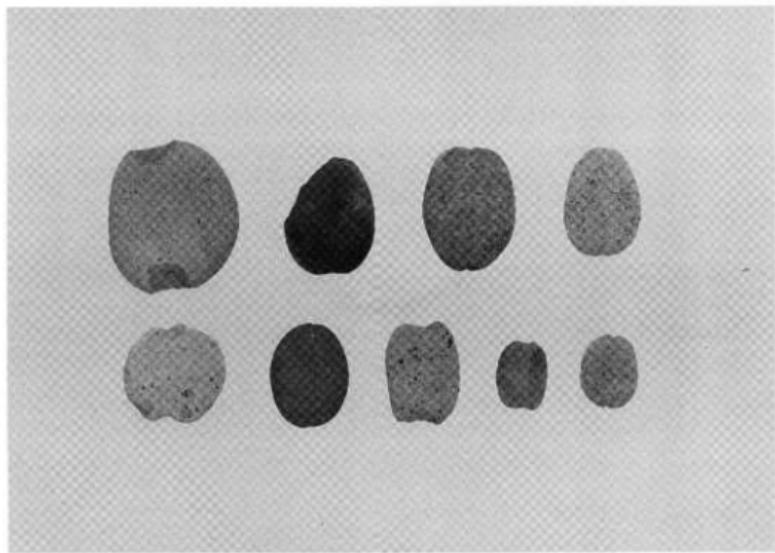


図41 塩生上野遺跡出土石鎚

## IV 平田・藤森遺跡(第2期)発掘調査概要

所在地 小矢部市名畠5131外

調査期間 平成6年4月20日～7月20日

調査対象面積 6,426.81m<sup>2</sup>

調査の原因 輸送ターミナル建設

調査日誌(抄)

- |  |                           |
|--|---------------------------|
| 4.20 試掘ビット設定。掘り下げ開始。                         | 5.20 全体写真撮影。作業一時中止。       |
| 26 F-10区で砂層より土師器検出。                          | 7. 4 作業再開。                |
| 28 縦トレンチ17、19、21及び横トレンチB、D、F、を設定。            | 11 包含層より月影式～法仏廟にかけての土器出土。 |
| 5.11 対象区西端はすでに掘削されているものと断定。<br>このため調査区からはずす。 | 12 弥生土器少量出土。埋没木の清掃。       |
| 13 遺跡範囲をほぼ確認。トレンチ10、Eを設定。                    | 13 調査区中央で土塙と考えられるもの検出。    |
| 18 トレンチC、Gを設定。                               | 15 南側～中央部にかけてビット群を確認。     |
| 19 トレンチ15を設定。                                | 18 調査区清掃。全体写真撮影。          |
|  | 20 現場作業終了。                |



図42 発掘調査位置図(1/15,000)

### 調査概要

平田・藤森遺跡は蟹谷丘陵と渋江川に挟まれた段丘上に立地している。標高は遺跡の南端で約50m、北端で約35mを測り、地形は北へ向かって緩やかに傾斜している。現在は水田に利用されている。すでに整備事業が完了されており、一部遺構面まで掘削されている箇所もあるようだが、大部分は尚良好に埋蔵されているものと思われる。(引用文献①) 今回の調査区は遺跡範囲の東端に当たり、輸送ターミナル建設とともに試掘調査である。

調査は対象地全域に一辺約1mのテストピットを設定し、遺物の分布状況を把握した後、分布状況が濃密な部分については適宜調査区を拡張した。この結果、対象地中央部西側で弥生期の遺物包含層と遺構を確認することができた。遺構としては弥生期の柱穴、土塙が検出されたほか、同期以降の埋没自然樹木が認められた。

(藤城)

引用文献①：小矢都市教育委員会『小矢都市埋蔵文化財分布調査概報Ⅳ』(小矢都市埋蔵文化財調査報告書第12冊)1983



図43 発掘調査状況

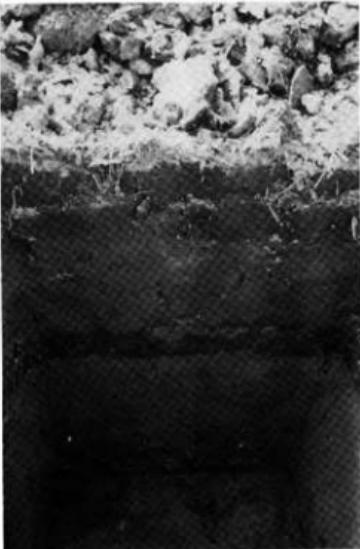


図44 土層



図45 調査区全景(西から)



図46 発掘調査状況(北東より)



図47 発掘調査状況(東から)



図48 発掘調査状況(西から)



図49 土層(北西より)



図50 土層(南西より)



図51 埋没自然樹木検出状況



図52 遺物検出状況



図53 土塚検出状況



図54 土塚内遺物検出状況



図55 ピット群検出状況(北から)



図56 調査区全景(東から)

## V 谷内17号墳発掘調査概要

所在地 小矢部市埴生字谷内107外

調査期間 平成6年7月19日～8月30日

調査対象面積 1,500m<sup>2</sup>

調査の原因 土砂採取

### 調査日誌(抄)

7.19	草刈開始。	8.2	第2次トレンチ8～11設定、表土剥ぎ。
22	第1次トレンチ①～⑦設定、表土剥ぎ。 掘り下げ開始。	3	くびれ状遺構検出(第2次トレンチ10)
25	第2次トレンチ1～7設定、表土剥ぎ。 掘り下げ開始。	5	第1次トレンチ①～⑦埋め戻し。
		30	墳丘部測量、調査終了。

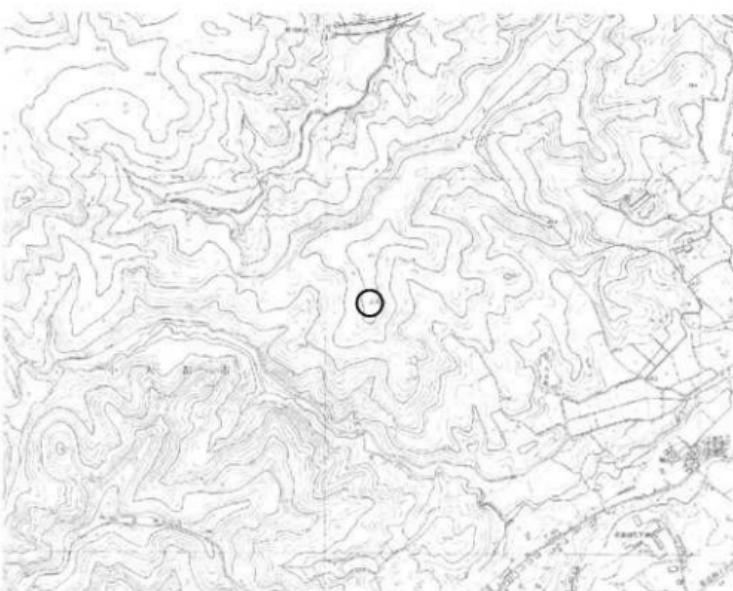


図57 発掘調査位置図(1/15,000)

### 調査概要

谷内17号墳は、小矢部市西部丘陵の中央部、ほぼ東西南北の4方向へ尾根がのびる標高約180mの山頂に位置する。尾根筋によって7つの支群に分けられる谷内古墳群の1基を形成し、同支群には南方方向へのびる尾根上に13~16号墳が隣接している。その墳形は、耕作や流土によって大きく変化しているが、1988年度の測量調査(参考文献①)では前方後方墳の可能性を強く推測させるものであった。

今回の試掘調査では、第1次として調査区域南側約30mに7箇所のトレンチを設定した。約1m強掘り下げたが、断面や土に何の変化も認められず遺構は確認できなかった。また、若干の土師質の土器片が出土したが時期を特定するものはなかった。次に調査区域北側約40mに第2次トレンチ11箇所を設定した。この区域は測量調査において古墳推定地とされ墳丘最高点標高183.100mを測る。山側のトレンチ6、平野側に面するトレンチ10においてくびれた状の遺構、トレンチ1、2、3、4、6において墳丘の基底部と推測される裾を検出した。このくびれ状の遺構は主軸を中心として左右対称ではなく、平野側は盛土し整形を施しているが対して山側はやや不整形ぎみである。このくびれの形状は北陸地方の前方後方墳にみる特有の曲線を描く。墳頂部中央に設定したトレンチ5では、盛土は確認できなかつたが、埋葬施設想定箇所として慎重に掘り下げたが、変化を認められず地山と考えられる黄褐色砂質土が現れたため、作業は中止した。

今回の試掘調査では、外表施設、埋葬施設、そして時期を特定する遺物は確認できなかつたが、外形は前方後方墳である可能性を更に強くした。 (辻谷)

### 前方後方墳と想定した規模

全長：約25m 前方部・後方部比高差：約25cm

前方部長さ：約14m 前方部中央最高点標高：約182.000m

前方部幅：約16m 後方部中央最高点標高：約182.625m

後方部長さ：約11m

後方部幅：約15m

くびれ部幅：約10m

参考文献①：宇野龍夫ほか「谷内17号墳の測量調査」『谷内16号墳』(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第23号小矢部市教育委員会・小矢部市古墳発掘調査団)1988

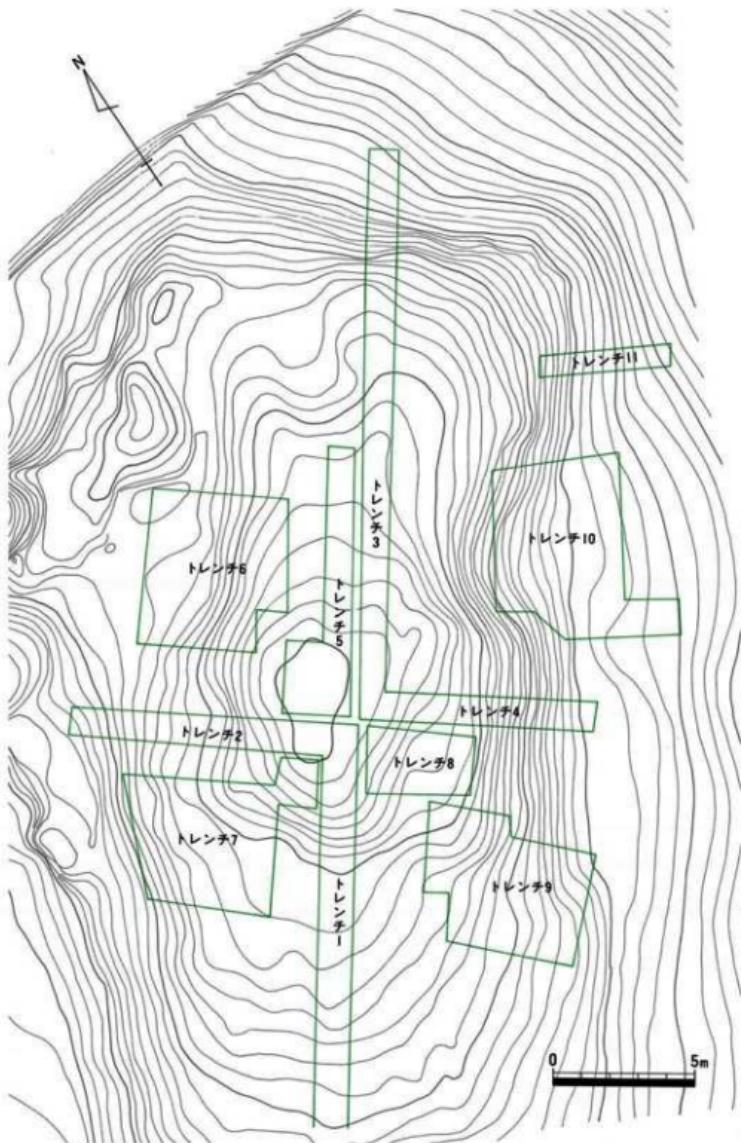


図58 墓丘測量図とトレンチ配置図(1/200)



図59 調査区遠景(東から)



図60 調査前状況(南から)



図61 第1次トレンチ①土層



図62 第1次トレンチ②土層



図63 第1次トレンチ④土層



図64 第1次トレンチ⑤土層



図65 第1次トレンチ⑤土層



図66 第1次トレンチ⑦土層



図67 調査状況



図68 墳頂中央部セクション東壁土層



図69 墓丘くびれ部東から



図70 墓丘くびれ部上方から

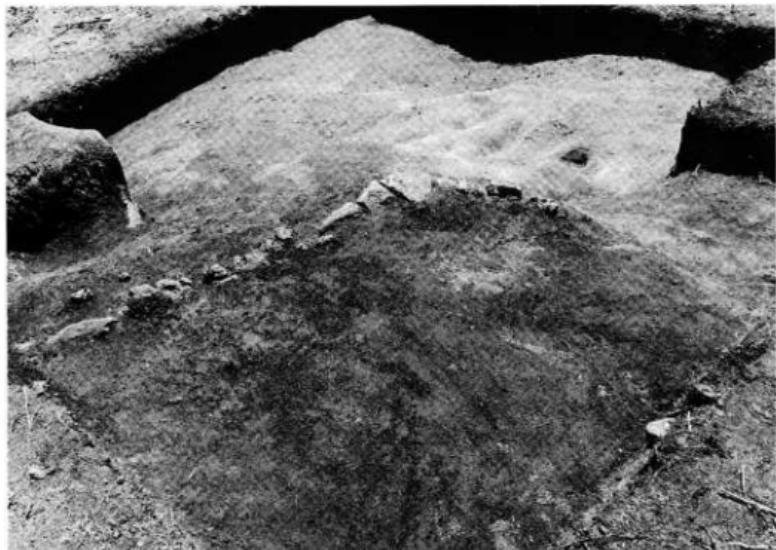


図71 墓丘南東隅コーナー



図72 前方部より後方部を望む

## VI 襄輪遺跡発掘調査概要

**所在地** 小矢都市襄輪176-1

**調査期間** 平成6年10月31日～11月7日

**調査対象面積** 245m<sup>2</sup>

**調査原因** 宅地造成

**調査日誌(抄)**

10.31 試掘ピット設定。掘り下げ開始。 4 遺構実測後土器取り上げ。

11.1 土器土灰、及び柱穴検出。 7 埋め戻し。調査終了。

2 全体写真撮影。



図73 発掘調査位置図 (1/15,000)

## 調査概要

表輪遺跡は小矢部市左岸から、蟹谷丘陵の東端山麓にかけて広がる段丘上に立地する。遺跡の東は低位の段丘や小矢部川の氾濫原と段をなし、西では丘陵へ続く傾斜地に接する。標高は42mから47mを測る。(引用文献①)今回調査区は遺跡範囲の南側に当たり、宅地造成による試掘調査である。



図74 表輪遺跡出土内黒土器

調査は対象地全域に一辺約1mのテストピットを設定し、遺物の分布状況を把握した後、分布が濃密な部分について適宜調査区を拡張した。この結果、8世紀後半の土塙(図82)が検出されたほか、同時期と考えられる柱穴と思われる土塙(図78)が3基検出された。土塙から出土した遺物はほとんどが須恵器で、杯蓋(図84)、有台杯(図84)、無台杯(図84)、長頸瓶(図85)、器台(図86)などがある。

(藤城)

引用文献①：小矢部市教育委員会『小矢部市埋蔵文化財分布調査概報』(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第12冊)1983



図75 発掘調査状況(南東から)



図76 遺物出土状況(東から)



図77 発掘調査状況(西から)



図78 土塙出土状況(東から)

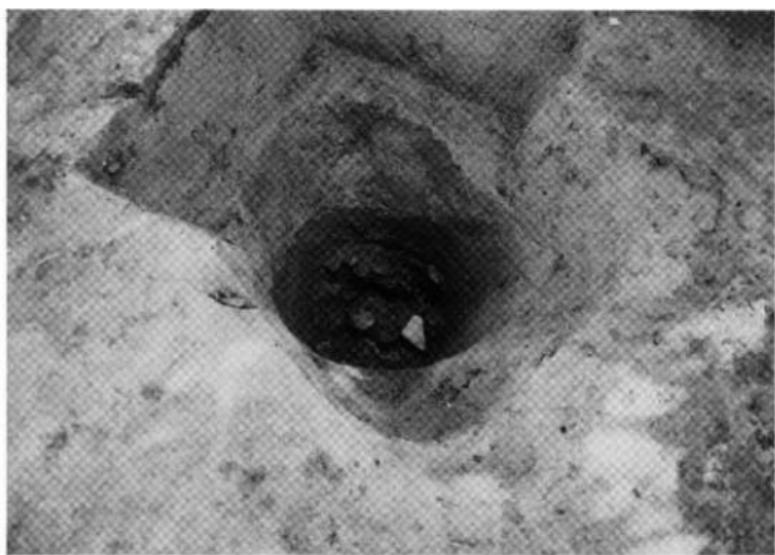


図79 土塙出土状況(南端)